

日米親善高校生野球大会が実施されました



今年は、本校がアメリカ合衆国カリフォルニア州モデスト市と交流を持ち始めて25周年となります。そして、日本のプロ野球創世期に伝説の米大リーガーのベーブ・ルースやルー・ゲーリックらの三振を奪ったことで有名な本校の同窓生沢村栄治氏の没後80周年忌ともなります。さらに、来年は本校創立90周年を迎えます。

そこで、創立90周年記念行事の一貫として、本校野球部の2年生と、モデスト市および周辺の高校の選抜チームとの親善試合が、10月11日午前11時より、アメリカのプロ野球チームも使うジョン・サーマン球場で実施されました。

開会式では、本校の校長が本校の海外研修旅行や、沢村栄治氏が過去にここモデストで戦ったことなどを英語で説明しました。読売巨人軍の社長から贈呈された、沢村栄治氏の背番号であり、また巨人軍では未だに永久欠番扱いされてる14番の背番号のついたユニフォームを着て、マウンドに上がり、始球式を行いました。



最終の練習から約1週間のブランクがあり、また監督ですら使用したことがない天然芝が広がる大リーガー使用グラウンドでの試合です。日本の選手達より体格的に大きく、筋力・腕力で絶対に日本側が不利であると、心配事の重なる中、試合は日本側の先攻で始まりました。

アメリカ野球の特徴であるパワーに対して、日本野球の特徴である「機動力」を使った攻撃で、本校生達は相手の守備を翻弄（ほんろう：思いのままにもてあそぶこと）することができました。そして、相手のミスを手を誘い出し、2回に先制点を奪うことができました。

続いて3回でも2点目をもぎ取ることができました。その後、3回の裏で、1点の失点を許してしまっただけで、その後も本校の投手陣が粘り、それ以降双方無得点での試合の進行となりました。

7回の表と裏の間では、本校バトン部2年生によるセブンニングストレッチと呼ばれる、グラウンド整備の合間の応援合戦が行われました。



その演技は全観客の注目を一点に集めるものであり、モデスト地区の高校の野球部の先生達からも大絶賛を受けました。

その後も双方無失点に抑え込み、2-1で9回の裏を迎えることができました。

日本側の勝利目前でありましたが、野球の本場、アメリカ側の意地もあったのでしよう、本校生徒達のような粘りを、アメリカチームの生徒達も見せつけ、一気に逆転を許し、結果はサヨナラ負けでした。



モデスト側のコーチは当初、日本の生徒は相手にならないと考えていたようでしたが、本校生徒すなわち日本野球の走塁・攻撃のアグレッシブさや、選手同士のコミュニケーション力や、チームが一丸になることに舌を巻（非常に驚くこと）していました。その結果、モデストチーム本来の力が十分に発揮できなかったことをしきりに悔やんでいました。

モデストチームにとっても、今回の試合はよい刺激になったようです。

日本とアメリカの野球文化のよい点の特徴的な違いが顕著に出た試合で、両国のカラーがせめぎあった試合でした。

試合後は、生徒同士はもちろん、教員同士も今後の友好関係を誓い合いました。

